

表1 浮腫病ワクチンの接種が肥育前期豚の浮腫病様事故率等に及ぼす影響

区分	炭酸亜鉛 添加 (%)	浮腫病様 事故率 (%)	日増体量 (kg / 日)		浮腫病 対策経費 (円 / 頭)
			去勢	雌	
ワクチン未接種区	0.30	24.1	—	—	405.6
ワクチン接種区	0.30	2.5	0.80	0.74	374.2 <sup>1)</sup>
	0.15	0.0	0.78	0.75	

1) ワクチン接種区の浮腫病対策経費は炭酸亜鉛添加量 0.15%で計算した。

2) 2021年4月から12月までに離乳した子豚 380頭を用い、体重約 20kg ~ 50kg の肥育前期豚を調査した。

# 離乳子豚の浮腫病 ワクチン大幅効果

## 炭酸亜鉛・抗生剤は削減

養豚経営において、浮腫病は離乳子豚の一部で、まぶたの腫れや神経症状を呈して急死する経済的損失の大きい疾病の



浮腫病に感染した豚

現場で使える！研究成果

一つとなっている。農林技術開発センター畜産研究部門においても、離乳から100日齢(体重50<sup>+</sup>程度)までの子豚で浮腫病による死亡事故が多発したため、炭酸亜鉛の添加や抗生剤の投与を適宜行っていた。

しかし、EUでは環境負荷低減のため高濃度酸化亜鉛の使用が禁止され、国内においても薬剤耐性菌問題により抗菌性飼料添加物の指定が見直されるなど、今後、重金属類や抗生剤に過度に依存しない飼養体系が求められている。

2021年度から浮腫

病ワクチンの販売が開始されたことから、その接種が肥育前期の事故率改善に及ぼす効果を検証するとともに、炭酸亜鉛低減の影響を調査した。

その結果、ワクチン接種により事故率が24・1%から2・5%へ大幅に改善され、ワクチンを接種した場合、炭酸亜鉛の添加量を0・3%から0・15%へ半減しても事故率に影響を及ぼすことなく、日増体量も変わらなかった。また、浮腫病対策にかかる経費は、炭酸亜鉛の低減や治療にかかった抗生剤の使用量削減によってワクチン経費増加分を十分に補えることがわかった。

(長崎県農林技術開発センター 畜産研究部門 高木豪)